



翼

つばさ



薫童子 初日の出ライブ 撮影：秦 保博様（宇部市）

No. 9

「翼」地域コミュニケーション誌

UBE

2016年12月

(発行予定：6月と12月の年2回)

- 宇部興産物語
- 宇部線の歴史
- 環境安全部より
- 地域の顔
- 工場の製品
- クラブ紹介
- 社会貢献
- 社員登場
- おしらせ

発行：
〒755-8633 山口県宇部市大字小串1978-96
宇部興産株式会社 宇部渉外部
(電話 0836-31-2111)



写真で振り返る「宇部興産物語」

中央研究所の発足

この写真は、昭和27年（1952）の中央研究所です。当時の第3代社長・俵田明は、戦争により生じた欧米諸国との産業全般にわたる技術水準の遅れを取り戻して国際社会に復帰するために、これまでの小規模分散型の研究体制を改める必要があると説き、本格的な研究所を設立しました。産業界に研究所の建設ブームが起きたのが昭和30年代でしたので、当社のこの決断は早いものであり、「宇部興産が1億円をかけて研究所をつくった」と話題になったようです。この頃の主要研究テーマは、アンモニア合成の触媒研究やセメント混合材の研究など。広範な分野で、基礎研究から応用研究までを取り組みました。



中央研究所（昭和27年7月完成）。設計は村野建設事務所、施工は大成建設㈱

環境安全部より 生物多様性への取り組み 鉱山を美しい森に復活させて 次の世代に伝える

日本は世界第一位のうなぎ消費国で、昨年の年間消費量は5万トンに達している。日本人が縄文時代から食べ続けているうなぎは日本の食文化において欠くことのできない食材です。そんな中、2014年に二ホンウナギが国際自然保護連合によって絶滅危惧種の指定を受けたことに衝撃を受けた方も多いのではないのでしょうか。

生物界全体に目を転じると2012年には二ホンカワウソの絶滅宣言が出され、最近ではキリンもいくつかの種が絶滅寸前の状態になっていることが遺伝子解析で分かりました。生物の絶滅速度は急激に加速しており、地球上に3000万種といわれる多様な生きものの中から毎日400種もの生物が絶滅しているとの推計もあります。

そんな時代にあつて、UBEグループはこの美しい地球を次の世代に伝えるために地球環境保全への積極的な対応を企業の基本理念の一つとして掲げ、生物多様性、つまり美しい自然環境とそこで生活する生きものたちの多様性を守ることに積極的に取り組んでいます。その一例がセメント主原料の石灰石を採掘した後の鉱山の緑化です。



刈田鉱山「様々な樹木が茂り始め、自然を取り戻しつつある石灰石鉱山」 植樹の様子

あの橋も、この橋も いろんなところに宇部興産機械

工場の製品を紹介

宇部興産機械株



宇部興産機械という会社をご存知ですか？宇部興産グループの機械事業の中核企業として、さまざまな大型の産業機械を自社工場で作っています。

そんな私達の製品の中で、市民の方々に一番身近なのは「橋」かも知れません。1974年に作り始めてから42年間、全国570橋（うち山口県内180橋）をあちこちに架けてきました。鋼板を曲げたり、溶接でくっつけたりしながら、手作りで大きな橋をこしらえ、皆さんの暮らしを支えています。

1つの橋が架かるまでの期間は、半年から1年!!

数百メートルの橋でも、ミリ単位の精度で完成させます。

2013年

宇部スカイロード (宇部市)

1999年

角島大橋 (下関市)

2016年

小郡ジャンクション (山口市)

1982年

興産大橋 (宇部市)

1992年

周防大橋 (山口市)

2011年

持世寺橋 (宇部市)

は施工年です

今度通るときは、思い出してくれと、うれしいな!!

地図に載る仕事ってすごい!!

橋梁営業部 高野



橋ができるまで

橋梁技術部 村田